

検討テーマ4：多自然居住地域・国土資源管理の 今後の展開方向について 現時点での基本的な認識と主な論点

1. 多自然居住地域に係る現時点での基本的な認識と主な論点

1 - 1 今後の多自然居住地域の在り方

(1) 多自然居住地域に関する状況

人口規模の小さい市町村では、人口減少、高齢化が進み、社会資本の整備については、都市部との格差が縮小しつつあるものの、依然として低い水準にとどまっている分野がある。また、中山間地域を中心に、集落機能の消滅、低下が見られる。

一方、都市と農村の連携に関する新たな取組が各地で行われつつあり、国民の価値観の転換や、近年の自然志向、健康志向の高まりとあいまって、田舎暮らしブーム、グリーンツーリズムへの関心が高まり、「都市と農山漁村の共生と対流会議」に見られるような国民的運動も起こり始めている。

このような中、農林水産業以外の新たな産業や雇用機会の創出など、成果が現れづらい分野もあり、今後の展開方向を検討する必要がある。

(2) 多自然居住地域の取組の推進

戦略推進指針の立案から時間が経過しておらず、国レベル、地域レベル様々な段階での施策が出始めたところである。これらの施策の連携・総合化を図るとともに、農林水産業を中心とした地域資源を活用した産業の新たな可能性、それ以外の新たな産業の展開等、今後重点化する分野を検討する必要があるのではないかと。

また、多自然居住地域の中でも、都市からの距離等、有利性・不利性に格差があり、条件に応じた振興策を考える必要もあるのではないかと。

(3) 多自然居住地域の有する機能に着目した対応

農地・森林が有する国土保全機能、都市農村交流・農山村居住としての場、循

環型社会の形成の可能性等、多自然居住地域の有する機能に着目し、これらを適切に発揮するための方策を検討する必要があるのではないか。

1 - 2 多自然居住地域に係る具体の論点

多自然居住地域に関しては、例えば次のような論点があるが、これらについてどのように考えるか。

(1) 多自然居住地域に関する施策が出始めたところであり、これらの施策の連携・総合化を図るとともに、農林水産業を中心とした地域資源を活用した産業の新たな可能性、それ以外の新たな産業の展開等、今後重点化する分野を検討し、更なる推進を図るか。

(2) 多自然居住地域の中でも、都市からの距離等、有利性・不利性に格差があり条件に応じて振興策を検討していくか。

(3) 農地・森林が有する国土保全機能、都市農村交流・農山村居住としての場、循環型社会の形成の可能性等、多自然居住地域の有する機能に着目し、これらの維持発揮の観点から検討するか。

2 . 国土資源管理に係る現時点での基本的な認識と主な論点

2 - 1 今後の国土資源管理の在り方

(1) 国内資源の積極的利活用

我が国の国土資源（森林、土地（農地）、水資源、海洋・沿岸域等）を取り巻く状況を見ると、グローバル化にともない自由競争が一層進む一方、地球規模での環境問題や資源問題が世界的に厳しさを増している。その中で我が国は20%以下の木材自給率、40%の食料自給率に代表されるように国内の国土資源を必ずしも有効に利活用してるとは言えない状況にある。また、森林や農地の管理水準の低下に伴う国土保全機能の低下が懸念されている。

このような状況を踏まえて、今後は、国土資源については、それらが持つ公益的機能の側面を強く意識した管理の在り方がより一層求められることになり、こうした管理を通じ、国内資源を従来以上に積極的に利活用することが重要になるのではないかと考えられる。

(2) 国土資源の「国民的経営」

その際、公的サイドを中心に主として規制により国土資源管理を行うだけではなく、民間企業、住民、NPO等の多様な主体が、市場メカニズムやボランティア的手法等多彩な施策を組み合わせ、地域毎に最適な管理を行うという方向に変化していくことが必要ではないかと考える。すなわち、国土資源の健全で持続的な利活用に向けての、「国民的経営」ともいうべき視点が重要になるのではないかと。

(3) 複合的な施策展開へ ~環境政策、地域政策等との連携~

さらに、国土資源管理という分野を単独で考えるのではなく、適切な国土資源管理を実施することが、地域の環境問題ひいては地球規模の環境問題の解決に資する、あるいは地域の活性化に繋がる等、環境政策や地域政策等関連する分野と連携しつつ施策展開を図ることが従来にも増して重要になるものかと考えるがどうか。

2 - 2 国土資源管理に係る論点

具体の資源管理に関しては、例えば次のような論点があるが、これらについてどのように考えるか。

- (1) 流域等を中心に環境保全等の視点をより重視し、資源管理と環境保全を合わせることで流域における国土保全、国土資源管理のより一層の推進が可能となるか。
- (2) 森林資源管理について、多面的機能を維持・増進するためには、公的サイドの関与を含めた管理が必要と考えるが、具体的にはどのような方策が考えられるのか。
- (3) 国土資源管理を効率的に実施するには市場メカニズムの活用が重要と考えるが、それはどの分野において可能性が高いのか。
- (4) 今後の国土資源管理については、多様な主体が役割分担しつつ、参画し、実施していくことになるものかと考えるが、実効性を上げるためには、管理の組織をどのように考えればいいのか。